

まちの未来はあなたが主役

高校生と市長のふれあいトーク2017

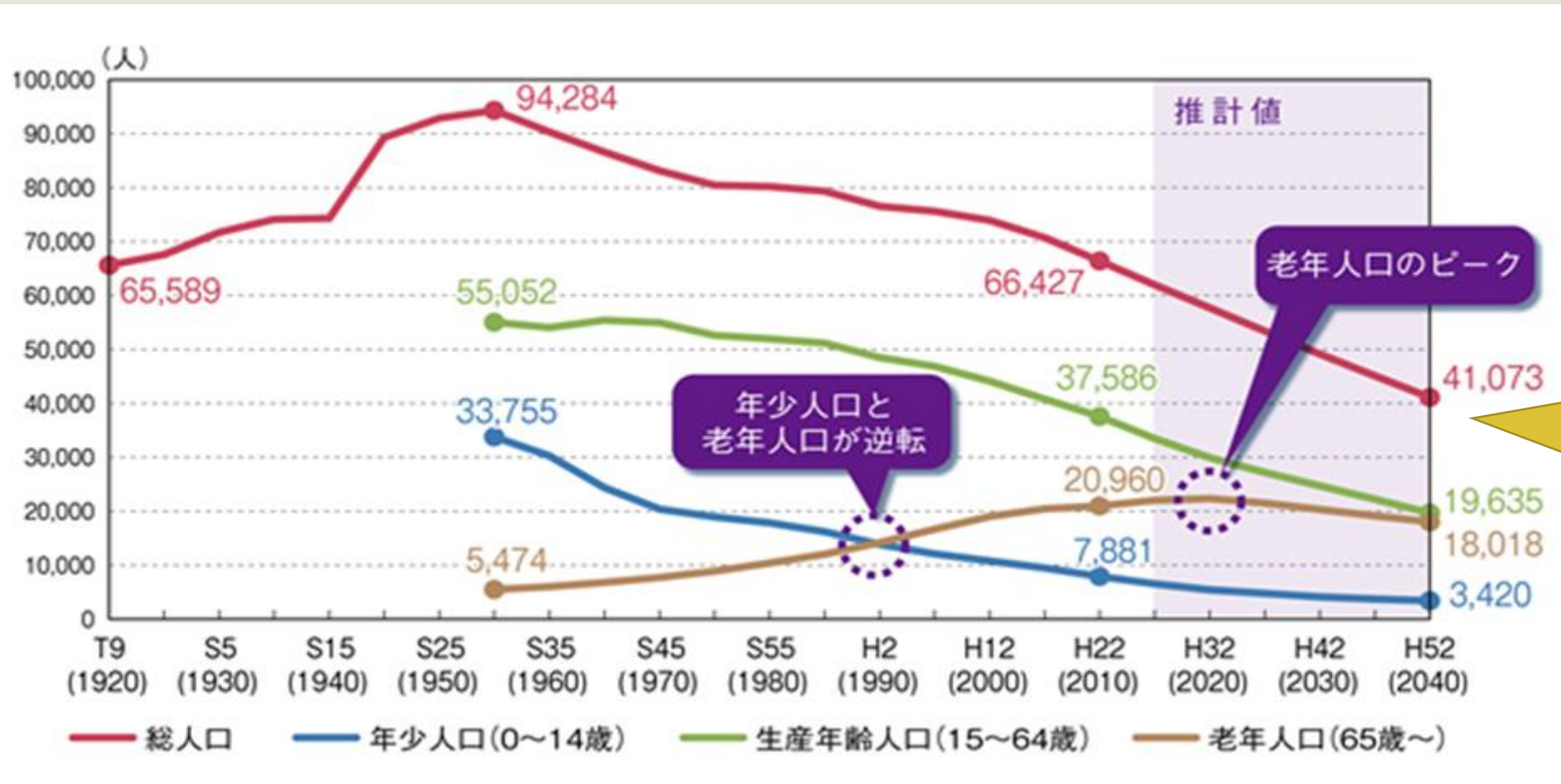
村上市の概要

- 新潟県の北端に位置し、北から東にかけては山形県に接している村上市。南は関川村および胎内市と接し、70キロメートル圏内には新発田市、新潟市および山形県鶴岡市があります。
- 面積は約1,174.24平方キロメートルで、新潟県の総面積のおよそ9.3%を占める。海岸線は、約50キロメートルにもおよぶ。人口は62,133人（平成29年5月1日現在）。
- 明治4年の廃藩置県、明治22年の市町村制施行により現在の基本的枠組みが成立し、旧村上市、旧荒川町、旧神林村、旧朝日村および山北町は、昭和30年前後の合併によって成立しました。
- 平成20年4月1日に旧5市町村が合併し、新市として「村上市」が誕生。現在10年目を迎えている



人口

■ 人口ビジョン



合併時 約70,000人
現在 約62,000人
23年後には、
約41,000人

当市の人口の特徴

- 出生数は減少し、死亡数は増加している。（年間約590人減）
- 転入者が転出者を上回ることがなく、社会減の数は減少傾向。（年間260人減）
- 合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子供の数）は全国や県の数値より高く推移している。
- 村上市からの転出先は、県内が大多数。次いで東京圏が多い。
- 村上市への転入は東北地方（山形県や福島県）からが多い。
- 男性に比べ、女性の転出超過の幅が多い。男性の東京圏転出では、平均すると転出と転入の差がわずかである。
- 高齢者のみの世帯（7,000世帯以上）

● できるだけ早く、若者の転出を抑える策を講じるとともに、出生数を上げ、健康であり続ける対策を講じることが同時に進まなければ、大きな効果が期待できない。

人口減少を克服するための市の取り組み

- ・雇用を拡大し、賑わいと活気のあるまちをつくる
- ・個性ある魅力を高め、人をひきつけるまちをつくる
- ・結婚や子育てを応援し、若者が暮らしやすいまちをつくる
- ・地域の連携により、支え合いのまちをつくる



奨学金制度

国などの制度

- 第一種奨学金（無利子）
- 第二種奨学金（有利子）

平成29年度から給付型の奨学金を新設

平成29年度から無利子奨学金の利用条件を緩和。柔軟な返還方法も選択

市独自の貸与制度

- 貸与月額
3万円、5万円、7万円
- 無利子
貸与終了1年後から10年以内に返還

新しい市独自の奨学金返還支援制度など

奨学金返還支援補助金

- 対象者

前年度に市の奨学金の返還した人で
市内に住所を有する人

- 補助額

前年度に市の奨学金の返還金額の
3分の1（上限年間10万円）

※5年間で最大50万円

医学生修学資金貸与制度

- 対象者

医学を専攻する大学生で、市内病院
で医師の業務に従事しようとする人

- 貸与額

月額15万円（国公立大学）

月額30万円（私立大学）

- 返還の全額免除要件有

終わりに

郷育（さといく）のまち・村上

- 「ここで生きる」ことに自信や誇り、喜びや生きがい持ち、郷土への愛着を基盤に自らの進路を切り開いてほしい。
- あなたたちに未来の村上が託されるといっても過言ではないでしょう。
- 村上から転出しても、鮭のように4年後には、村上に戻ってきてほしい。戻ることができなくても、この村上に思いを馳せ、何かしらで関わり続けてほしい。

